



# What's Christmas ?

## クリスマスってなあに？



クリスマス(Christmas)とは、Christ(キリスト) + mas(ミサ)で、キリストの祭→イエス・キリストの誕生を祝う日のことです。その日が12月25日となっているのは、古代ローマの暦や当時の史家の残した記録に従っていることと、他の宗教の習慣(冬至の祭)が形を変えて取り入れられたことなどによっています。

世界中で祝われるクリスマス—このクリスマスの主人公イエス・キリストの誕生はどのようなものだったのでしょうか。

### 1. 預言

イエス・キリストが生まれる700年以上前から、その誕生が預言されていました。やがて「驚くべき指導者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる救い主—「男の子」が、ユダヤのベツレヘムという所で生まれる、というものです。



### 2. 神の力によって

ナザレに住むマリアという女性が、神の力によってイエス・キリストを身ごもりました。マリアは大工ヨセフのいいなずけで、まだ結婚していませんでしたが、神への信仰により、この大きな事柄を受け止めました。



### 3. 人口調査

当時、ユダヤを支配していたローマ帝国の皇帝アウグストゥスが人口調査をおこない、ユダヤの民は登録のため、それぞれ先祖の町に帰らなければなりません。ヨセフも身重のマリアを連れて、先祖の町ベツレヘムへ行きました。



### 4. 誕生

しかし、ベツレヘムの宿屋はどこも満員で、ヨセフとマリアは家畜小屋で旅装を解かなければなりません。その晩、イエスは誕生しました。そのゆりかごは家畜のえさを入れる飼葉桶(おがくみ)でした。



### 5. 羊飼いの礼拝

ベツレヘムの近くの野原では、羊飼いたちが羊の番をしていました。心から救い主を待ち望んでいた彼らに、天使が現れ、イエス・キリスト誕生がまっ先に告げられました。家畜小屋にイエスを探し当てた羊飼いたちは、イエスを礼拝し、喜びながら帰って行きました。



### 6. 学者たちの来訪

その頃、ユダヤのはるか東方に住む占星術の学者たちが、ユダヤ人の王が生まれたことを告げる不思議な星を見つけました。学者たちは星に導かれ、長い旅をしてベツレヘムの幼子イエスの所にやってくる時、黄金、乳香、没薬を献げて礼拝をしました。



やがて、イエス・キリストは、ご自分が「神の子」であること、悔い改めて神を信じることを宣べ伝えるようになりました。病気の人を癒し、孤独な人の友となり、最後に、何の罪も犯さなかったのに、十字架に架けられて殺されました。それは、神を信じないで自分勝手に歩むすべての人の罪の身代わりでした。しかし、墓に葬られて3日目、イエスは死の力を打ち破ってよみがえったのです。

イエスの十字架が自分の罪の身代わりであること、そしてイエスの勝利の復活を信じ、イエスを自分の救い主と受け入れる人はだれでも、永遠の命をいただき、希望をもち、いつも喜んで生きることができるようになりました。クリスマスは、イエス・キリストという、神様からのすばらしいプレゼントを心から感謝してお祝いする日なのです。



【インタビュー】

# すべてを知る 神様に導かれて



加賀 清孝さん・秋山 雪美さん

声楽家の加賀清孝さんと秋山雪美さんご夫妻に、お話を伺いました。

「お二人はそれぞれ、いつクリスチャンになられたのですか。」

「北海道で、キリスト教とは無縁の家で育ちました。ただ思い出すと、小さい頃から音楽が好きで、歌が歌いたいために教会学校に行ったことがありました。賛美歌を歌って貧血を起こし、一、二、三回で行かなくなりましたが。(笑)



キリスト教との出会いは二十八歳の時です。文化庁のオペラ研修所で、妻と出会ったことがきっかけでした。第二期生として、二年間一緒に勉強しました。妻ののびのびとした生き方―競争の社会にいないのにあくせくしていない伸びやかさ―を見て、不思議に思ってた。それから、クリスチャンだということでした。研修所二年目の六月、妻に特別集會に誘われて、初めて教会に行き、聖書の言葉に出会いました。それから、毎週、教会に通い、半年後のクリスマスに洗礼を受けました。

―半年間の求道でクリスチャンに……。すばらしいですね。  
清孝 実は、二十五歳の時に恋愛に失敗して、相手の心を傷つけたことを、ずっと悩んでいました。また歌が上手になれないことに劣等感をもち、あがき苦しんでいて、この状態から救われたいと思っていました。それが神様に叫ぶ第一声だったと思います。そうして三年間苦しんでいた妻に出会ったのです。  
雪美 オペラ研修所では、十人の研修生が朝から晩までいつも一緒で、兄弟のように過ごしていました。その中で、主人は、しょっちゅう、「重荷を、降ろせるなら降ろしたい」と言っていたんです。も

う、口癖のように。それで、私が行っている教会の特別集會に誘ったのですが、それから毎週通って来るとは思っていませんでした。  
清孝 車の免許を取ったばかりということもあって、通うのが苦ではなかったんです。その集會に行つたのも、甥に―甥は今、北海道で牧師をしているのですが、当時、東京に来ていました―集會のチケットを渡そうとして渡せず、余つたので私が行つたというわけで……。(笑)

―それらは、神様のお導きだったのでしょうか。

清孝 二十五か六歳の時、ミッション系の学校東洋英和の講堂で、英国の作曲家ブリテンがつくつた「放蕩息子」のオペラ公演をしました。その時、楽屋に、

「天の父―神様に―あなたがたの頭の毛さえも、みな数えられています」

という、聖書の言葉(マタイの福音書10章30節 新改訳聖書)が掲げてあったんです。(こんな悪い事をしてる私のことを全部知っておられる方がいる)とハッとしました。恐ろしさを覚えました。でも、教会でその同じ聖書の言葉からメッセージを聞き、神様は私のことをすべて知った上で、まるごと私を愛してくださる



方だということがわかったのです。半年後、洗礼を受けた時は、とてもうれしかったです。

―クリスチャンになってどのように変えられましたか。

清孝 私の性格は癖が強く、躁鬱的な所があつて、舞台上に出ている時は、パーッと明るいんですが、一人になって作曲する時などは全く逆で……非常にその幅が激しかったのです。それがだいたい和らげられたというか、穏やかになり安定した精神状態になりましたね。今でも癖は強いのです。(笑)

―さて、雪美さんはいつクリスチャンに？

雪美 十三歳の時です。私は四国松山のクリスチャンホームで育ちました。三代目です。昔、まず叔父がクリスチャンになり、その後、一族全部がクリスチャンになったという環境でした。私が十三歳になった時、父から言われました。「そろそろ洗礼を受けたらどうだ。」

「私はまだ何も悪い事をしていない。神様は赦してくださる方だから、いろいろ好きな事をして、八十五歳頃になったら、『赦してください』と悔い改めてクリスチャンになる」

と答えると、父は「恵みの時間が長いのと短いのと、どっちが得だ？」と問いかけてきました。どっちが得か、計算しました。絶対、恵みの期間が長い方が得です！(笑)それで、九月十日、姉と一緒に、瀬戸内海で洗礼を受けました。それから、スポンジに水がしみ込んでいくように、聖書の言葉が本当のこととして蓄積されていきました。生活の中で、御言葉が実際の形となつてできてくるようになりました。

―お母様はいかがでしたか。

雪美 母も徹底していましたよ。小さい頃から音楽を習っていた私に、

「音楽は神様のために使わなければ、すぐサタンが使う」と、耳にタコができるほど言っていました。ですから、大きくなったら神様のために音楽をするんだ、と思っていました。ピアノを専攻していたのですが、音大受験直前に声楽に転向し、プライベートレッスンの先生がクリスチャンだったこともあり、神様を賛

美するために歌おうと、私なりに勉強に励みました。

そして、二十八歳の時、文化庁オペラ研修所の第二期生となったのです。

—そこで、清孝さんと出会われた……。教会にお誘いになった時、ご主人に特別な感情はおもちでしたか。

**雪美** いいえ。彼を教会に誘った時、松山の家族に彼の救いのために祈ってほしいと頼みましたが、そのような思いは全くありませんでした。

—それが、どのようにして結婚に至ったのでしょうか。

**清孝** クリスマスチャンになって二年経った頃です。ある時、私は風邪で熱が高く、フラフラするくらい具合の悪い日がありました。オペラの稽古を終えて車の所に戻ったら、妻のメモがあったんです。足が痛くて疲れたから、家まで乗せてってくれないかと。それで、車の中で稽古が終わるのを待っていたんですが、(どうして)ぼくは、こんなに熱があつて具合が悪いのに、彼女を待っているの(だろう)と思つたんです。そして、(あ、それは、この人のためにぼくが必要だからだ)と気づきました。それで、車の中でプロポーズしました。それが二度目でした。

## 二度目のプロポーズ?

**雪美** はい。一度目は、その二年前です。でも、断りました。でも、その後、私は自分の傲慢さに気づかされました。私だつて神様に赦された者だ。神様が赦して受け取ってくれた人を、どうして私が受け取れないということがある(だろう)か、と。そして、もし、もう一回言われたら、平身低頭してお受けしよう、と思つていました。それで、この時のプロポーズに、すぐ「いいですよ」と返事しました。そして、結婚するからには、二人で一緒に神様に任せよう、と。

## めでたくクリスマスチャンホーム誕生ですね。

**清孝** それが、最初から大波乱でした。結婚して一カ月後、二人でイタリアに留学したんですが……

**雪美** 私にガンが見つかったのです。そして、日本で手術することにしました。私は初めて「自分の死」と向き合うことになりました。私亡き後の主人のことや両親のこと、私自身が神様の前に立つことなど、三日間、悩み、祈りました。そして、三日目に、次の御言葉が与えられました。

「私はこう確信しています。死も、いのちも、……今あるものも、後に来るもの

のも、力ある者も、……そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。」(ローマ人への手紙 8章38、39節 新改訳聖書)

それで、(あ、私は大丈夫だ、いつでも神様のところへ行ける)と確信したのです。

## いつでも死ねる、と……。

**清孝** それを聞いて、だったら今のうちに、翌日、全ヨーロッパの時刻表を調べ、周りの反対を押し切つて、二人で旅行に出発しました。ドイツ圏を巡り、イタリアでは海水浴も楽しみました。

**雪美** ところがその後、聖書を読む度に、「癒し」ということが書いてある箇所を示されるようになったのです。へえ、私は癒されるのかしら)と思ひ、初めて、真剣に癒されるよう祈りました。(神様、癒してください。私はまだ歌は下手です。もっと上手くなつてからお召しください)と。(笑)

日本に帰つて検査すると、ガン細胞を脂肪が取り囲み、他には転移していませんでした。



奇跡が起こつたのです！ そして手術でガンを取り、主人の全面協力の下、リハビリに励みました。

このことを通して、(私が、神様のために)という思いが取り去られ、神様に自分を全く献(ささ)げて用(もち)いていただくことを学びました。また主人という肉体的・精神的・霊的な助け手が与えられ、心から心配してくれる主人の両親が与えられたことも、感謝しました。それから、毎朝七時に起きて、加賀家の救いのために、二人で心を合わせて祈るようになりました。

## —その祈りは聞かれましたか。

**雪美** はい！ 北海道から義母が上京した時、教会で三日間の伝道集会が開かれたのですが、その第一日目、義母は自分から前に進み出て、神様を信じる決心をしたのです。神様のご計画は祝福の計画、完璧ですね。

—清孝さんはテレビの子ども番組に出ていらしたことがありましたね。

**清孝** 一九八六年から四年間、NHK教育テレビの「歌つてゴー！」という番組です。

**雪美** 第二回目の収録の日は娘が生まれた日でした。主人は娘の産声を聞いてからNHKに駆けつけたのです。

**清孝** カメラに向かつて「皆さん、こんにちには！」と言つたはいいんですが、後が続かず……。頭、真っ白。立往生(たちうりじょう)でした。(笑) 子どもたちと一緒に歌つた四年間はとても楽しかったです。このことは、後に「子どもの賛美」制作に関わるきっかけになりました。

## —お二人のご経験は、何一つ無駄にはなっていないですね。

**清孝** はい。現在、オペラやコンサートへの出演、作曲や編曲の他、月二回くらい、教会から招かれてチャペルコンサートを家内と一緒にこなつています。与えられた音楽の賜物が神様のために意味あるものとされて今に至り、健康を与えられ、何の不自由もないことを感謝しています。今、私の好きな聖書の言葉は、

テサロニケ人への手紙 第一五章一六〜一八節です。

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。」(新改訳聖書)

## 雪美

私はミカ書六章八節の「主は何をあなたに求めておられるのか。それは、ただ公義を行ない、誠実を愛し、へりくだつて あなたの神とともに歩むことではないか」(新改訳聖書)です。この御言葉をいただいで、これからも歌をもつて神様を賛美する働きを続けていきたいと思つています。また、私たちは年をとつて衰えていきますが、後に続く賛美の担い手を育てて、バトンタッチしていけたら、と願つています。

(単立校白恵み平安キリスト教会所属)

## 加賀 清孝(かが きよたか)さん プロフィール

桐朋学園大学音楽学部声楽科卒業。東京芸術大学大学院独唱科修士課程修了。文化庁オペラ研修所第二期生修了。イタリア・ボローニャ音楽院に留学。二期会会員。二期会幹事。

オペラ「フィガロの結婚」伯爵でデビュー。以来、多数のオペラやオペレッタの舞台に出演し活躍。その他、様々なコンサートにバリトン・ソロで出演。演奏の傍ら作曲・編曲もし、作品は音楽教科書等に掲載されている。2013年4月に新歌手団体「歌工房 Bon-Voyage」を立ち上げ、新作を発表予定。

## 秋山 雪美(あきやま ゆきみ)さん プロフィール

東京音楽大学卒業。同研究科修了。文化庁オペラ研修所第二期生修了。文化庁派遣在外研修員としてイタリア・ボローニャ音楽院に留学。二期会会員。女声アンサンブル『ゴスペル・キャラバン・レプタ』主宰。

1977年、日本音楽コンクール3位。1978年、東京国際コンクール2位。オペラ「カルメン」等多数の作品に出演。また、「沈黙」、「ルル」、「欲望」という名の電車」等、日本初演も手掛ける。コンサートではアルト・ソロとして活躍。各地の教会で賛美の奉仕をしている。

★ ファン Fun (楽しいこと)

12月に入ると、クリスマスの準備を始めます。クリスマスにはたくさんのパーティーをします。そのために、だれもが友達と家族のためにクリスマス・プレゼントを買います。それで、お店は長い時間開いていて、24時間開いている店もたくさんあります。

伝統的な飾りは、頭にかぶる紙の王冠や小さなおもちゃが入っているボンボンやクリスマス・ツリー、そして金色や銀色のモールや装飾品です。毎年、私の家では、私が生まれてから、いろいろな意味と歴史をもっている装飾品をツリーに飾っています。



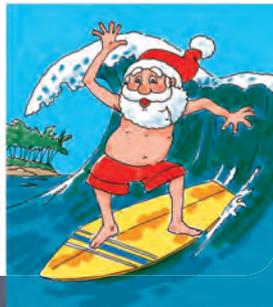
楽しいパーティーグッズが詰まっているボンボン



クリスマス・ツリーは、12月1日から家に飾ります。

クリスマスの日には、家族でプレゼントの交換をします。子どもたちはサンタクロースからのプレゼントも開けます。もちろん、暑いので、オーストラリアのサンタクロースは、半ズボンをはいていて、袖なしのシャツを着ているサーフィンサンタです。午後には、お腹がいっぱいになって昼寝をする人が多いですが、楽しいゲームをする人もたくさんいます。外でクリケットをしたり、散歩をしたり、海に行ったりもします。外でバーベキューをする人も多

いです。



(救世軍)

オーストラリアでも、人を支援する働きが必要です。毎年、救世軍は100万人を助けています。特にクリスマスの時は、生活苦を覚えている人々におもちゃやクリスマスの食べ物を贈ったり、クリスマスの日に温かい食事を提供したりします。また、受刑者に代わって、受刑者の子どもにクリスマスのプレゼントを贈ることもしています。

日本では、お店で買ったプレゼントはていねいに包んでありますが、オーストラリアではそのようなことはありません。それで最近、救世軍人たちが、ショッピングセンターでギフトラッピングサービスを提供して、その代金を社会鍋に献金してもらっている小隊もあります。

多くのオーストラリア人は、クリスマスがイエス様の誕生をお祝いする時であることを知っています。しかし、イエス様が何のためにこの世界に誕生したのか—私たちの平和のために、私たちに喜びをもたらすためにこの世に来てくださったことは、あまり知られていません。私は今年のクリスマスに、すべてのオーストラリア人が、そして日本人が、イエス様の誕生の意味や力を知るように祈りたいと思います。

チョコボールのレシピ

材料 (24~25個分)

マリービスケット 250g (2つのパック)

ココア 30g (飲料用ココアでもよいが、その場合は40g)

ココナツパウダー 100g (50gは混合、50gは外の飾りのため。乾燥させ細かく刻んだココナツ)

加糖練乳 360g



作り方 (作り時間:20分、冷やし時間:30分)

1. ビスケットをつぶして、ボウルに入れる。
2. ココアとココナツパウダー50gを入れて、よくかき混ぜる。
3. 加糖練乳を入れて、よくかき混ぜる。
4. 生地を小さく取って、手でボールの形(直径3~4cm)に丸め、残りのココナツパウダーにボールを転がして、コーティングをする。
5. チョコボールはトレーに置いていく。
6. 生地を全部丸めたら、冷蔵庫に30分入れて、硬くなったら、でき上がり。



キリストが誕生した家畜小屋の場面を人形を使って再現



クリスマスには、カフェのスタイルの礼拝も



小隊(教会)では、子どもたちも役割をもって、共にイエス様の誕生を祝います



## 南半球

オーストラリアの  
クリスマス

クリスマスと言えば——ホワイトクリスマス、雪がきれいに積もっているクリスマスツリー、寒い夜、暖かい部屋で祝うホームパーティー……。でも、南半球のクリスマスは、ちょっと違うようです。2年前にオーストラリアから来た救世軍士官(伝道者)メリッサ・テンブルマン・トウエルズさんに、その様子を紹介してもらいました。

私はクリスマスが大好きです。クリスマスの1カ月前にすぐテンションが上がってきて眠れなくなります。横になっても目を覚まして、プレゼント交換やクリスマスの準備について考えています。今年の6月、日本が暑くなった時、不思議な感じにおそわれました。頭の中でクリスマスの歌が響いて、つい歌ってしまうのです。また、「もうすぐクリスマスだ!」という考えがよぎりました。驚きましたが、こうなったのは、オーストラリアではいつも、暑くなったらクリスマスが近づくからだと思いました。

★ ファミリー  
Family(家族)

オーストラリア人にとってクリスマスは、Family(家族)、Food(食事)とFun(楽しいこと)を意味します。みんな家族や親しい人とクリスマスの日を過ごします。日本のお正月と同じように、家族との交わりが大切にされています。12月25日、クリスマスの日には祝日ですが、道路はとても込んでいます。みんなが家族を訪問をしているからです。

私の家族の大好きな  
クリスマスの歌

私たちは、イザヤ書9章5節からの歌を歌いました。「ひとりのみどりごがわたしたちのために生まれた。ひとりの男の子がわたしたちに与えられた。権威が彼の肩にある。その名は、『驚くべき指導者、力ある神 永遠の父、平和の君』と唱えられる。」

## オーストラリアのジングル・ベルズ

Dashing through the bush  
In a rusty Holden Ute  
Kicking up the dust  
Esky in the boot  
Kelpie by my side  
Singing Christmas songs  
It's summer time and I am in  
My singlet, shorts & thongs

(さびた軽トラックで  
森を走り抜けよう  
砂ぼこりをあげながら  
アイスボックスは車のトランクに  
牧羊犬は隣りで カロルを歌っている  
今は真夏だ 私は袖なしのシャツと  
半ズボン姿)

OH, JINGLE BELLS, JINGLE BELLS JINGLE ALL THE WAY  
CHRISTMAS IN AUSTRALIA ON A SCORCHING SUMMER'S DAY  
JINGLE BELLS, JINGLE BELLS CHRISTMAS TIME IS BEAUT  
OH WHAT FUN IT IS TO RIDE IN A RUSTY HOLDEN UTE

(オー! ジングル・ベルズ、ジングル・ベルズ  
ずーっとベルが鳴る)

オーストラリアのクリスマスは 焼けつくように暑い  
ジングル・ベルズ ジングル・ベルズ  
クリスマスは素晴らしい  
さびた軽トラックで走るのは楽しい)



メリッサさんと、ご主人のダニエルさん

★ フード  
Food(食事)

オーストラリア人の多くは、たとえば、お昼御飯を父方の親類と食べてから、晩御飯を母方の親類と一緒に食べます。クリスマスの日にご馳走をたくさん食べるのです。

暑いのに普通にオーブンを使って、伝統的なお昼御飯を作ります。ローストした七面鳥の肉や鶏肉、豚肉やハムなどです。実は、この肉の種類が全部出るのが普通です。また、ローストポテトや人参やカボチャ、グリーンピースの煮たものやコーンなどの野菜もあります。もちろん、グレイビーソースをたくさんかけます。伝統的なデザートはプラムブディングと温かいカスタード、ホイップクリームとアイスクリームです。他の伝統的なお菓子は、バタークッキーやフルーツケーキ、チョコボールです。どれもおいしくて、今思い出してもよだれが出てしまいそうです。

★ ザ サルベーション アーミー  
The Salvation Army

この時期、オーストラリアでも、救世軍は街頭で社会鍋の募金をしたり、ブラスバンドがカロルを演奏したりします。天気の良いと、立ち止まって聞いてくれる人がたくさんいます。クリスマスの日には礼拝をします。また、小隊でキャンドル・サービスをしたり、カフェのようなスタイルの礼拝をする所もあります。ある小隊では、キリストの降誕の場面を人間サイズの人形を使って作りました。頭は風船です。

メルボルンでは、毎年12月24日の夜、クリスマス・イブに、野外で大規模なカロル集会をおこない、芸能人が歌い、救世軍のメルボルン・スタッフ・バンドも演奏します。カロル集会には5万人が参加し、テレビでも放映されます。私は毎年、家族と一緒にその様子をテレビで見っていました。